～「デフコミュニティと社会参加」指導案の紹介～

内容紹介①

聾生徒16名が焼死 岡山・聾学校寮の火災

哀れ不自由の身

手眞似の誘導及ばず

十二月十日朝三時十五分ごろ岡山縣西北部岡山立聾学校（校長小川義治）寄宿舎南端の部屋から出火、水利の便が悪かつたため同舎木造二階建一棟（百九十七坪）全焼、さらに隣接の旧学校本舎三階建寄宿舎（約三十坪）を半焼、同五時ごろ鎮火、校舎に同居していた聾生徒寄宿舎は職員生徒十七名、職員二十三名、計学校寄宿舎に泊つた三十名のほか教員、保護者多数が宿直のことゝて二階は大騒ぎを來し、職員、保護者らの手眞似に依り口眞似の誘導で生徒の大部分は無事避難、附近の消防団員に救助されたが、聾学校寄宿舎に泊つた三十七名のうち十六名は焼死に包まれ行方不明となり、午後四時半までに十六名の焼死体を発見した

静養室から出火

岡山市内の聾で國民學校四年だが、部長屋に泊まつていた三宅一はいの頭をなでて「寝ている子供の頭を踏んで起こして回つたが二階に寝ているお子供に別れの挨拶をしたのですが残念ながら助かつたのは三名だけでした、誰かが「火事だ」と叫ぶ声に驚いて飛び起きましたが、煙が激しくて二階へは降りられず、窓から飛び降りた生徒が「助けて」と叫んでいるのが聞こえましたが、どうすることもできませんでした

頭を踏つて起す

聾学校寄宿舎舎監山崎しずさん談　私が気づいたときは廊下一はいの煙でした、寝ている子供の頭を踏んで起こして回つたが二階に寝ているお子供に別れの挨拶をしたのですが残念ながら助かつたのは三名だけでした、誰かが「火事だ」と叫ぶ声に驚いて飛び起きましたが、煙が激しくて二階へは降りられず、窓から飛び降りた生徒が「助けて」と叫んでいるのが聞こえましたが、どうすることもできませんでした、階段の下は火の海で、聾の子供は驚いて逃げ場を失つたのです、防火訓練を寄宿舎でやつていればこんな惨事は起こさなかつたのかも知れません

夢中で逃げました

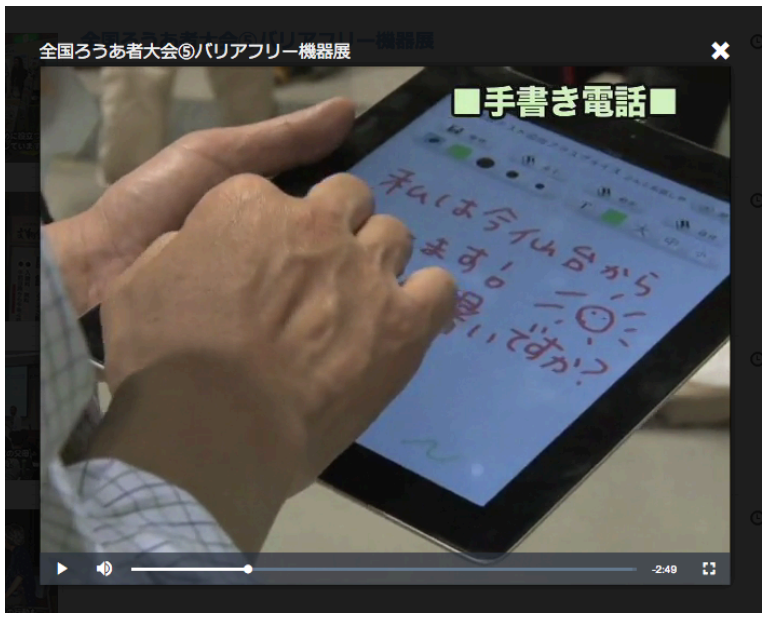
窪田聾唖学校小川義治校長談　保母先生に聞こえたかされ眼を覚ましたが、煙が激しくて二階へは降りられず、窓から飛び降りた生徒が「助けて」と叫んでいるのが聞こえましたが、どうすることもできませんでした、階段の下は火の海で、聾の子供は驚いて逃げ場を失つたのです、防火訓練を寄宿舎でやつていればこんな惨事は起こさなかつたのかも知れません

きのう慰霊祭

十六の幼い聾唖者を含んだ岡山縣立聾学校では同校十六名を校員室に安置、同校職員と分けつけた警官たちが涙の通夜を行つて二夜をすごし十二月二十二日朝八時から同市東川原斎場で小川校長らが葬主となり慰霊祭を行う

火事現場見取図　黒の部分は全焼、斜線は半焼、白は焼残り×印は出火場所

掲載：日本聾唖ニュース,昭和26（1951）年1月1日,No.30 新年号,2面



第2回：「宿泊施設の情報・コミュニケーション保障」

聴覚障害者が社会的自立を果たす上で必要である情報保障を、宿泊施設の事例から学ぶ内容となっています。

また、情報社会が進んでいても、まだなお聴覚障害者が生活のなかで情報不足を感じる場面が多くあることを踏まえて、聴覚障害者自身が社会にどう働きかけるべきなのかを考え、議論させることで課題解決能力を育てます。

1．情報保障とコミュニケーション保障の違いを考える（導入）

2．議論

宿泊時の問題点（不便な点、不安な点）を整理する。情報収集・予約、チェックイン、宿泊の場面別に、各グループから1つずつ出してもらう。その中で「情報保障」「コミュニケーション保障」の概念で整理する。

✧ 宿泊室のドアにあるセーフガードの役割とは？

✧ 宿泊施設側としての理解促進と、宿泊者側としての「聞こえないこと」の伝達などが取組課題として挙げられることを確認。

3．学ぶ

情報提供：聾学校寄宿舎の火災事故について知る。

映像視聴：最新の情報アクセシビリティ機器の種類について知る。
（手書き電話、聴導犬、光・振動機器など）

4．宿泊施設の優れた取組例について（まとめ）

宿泊施設が光・振動機器をいくつ用意すれば良いのかという発問をして学生に考えさせる。地域の観光協会やホテルグループで対応している例を紹介する。

内容紹介②

第4回：「コミュニティ」

同じ聴覚障害のある先輩が経験した内容から聴覚障害者観と社会的背景を学ぶことで、自分との共通点、相違点をを見つけます。

さらに、デフコミュニティのモデルを提示して、デフコミュニティとろう者文化について知り、自分の立ち位置、社会との関わりについて改めて確認をすることができます。また、今後の自分の社会との関わり方、将来について考える機会を与えます。

1．同じ聴覚障害のある先輩の話を聞く（学ぶ）

「自分史（肥田弘二氏）」の話を映像で流し、ワークシートにまとめる。

聴力喪失について
高等学校までの教育歴について
高等機関での学修について
就職について
ろうあ運動について

2．議論

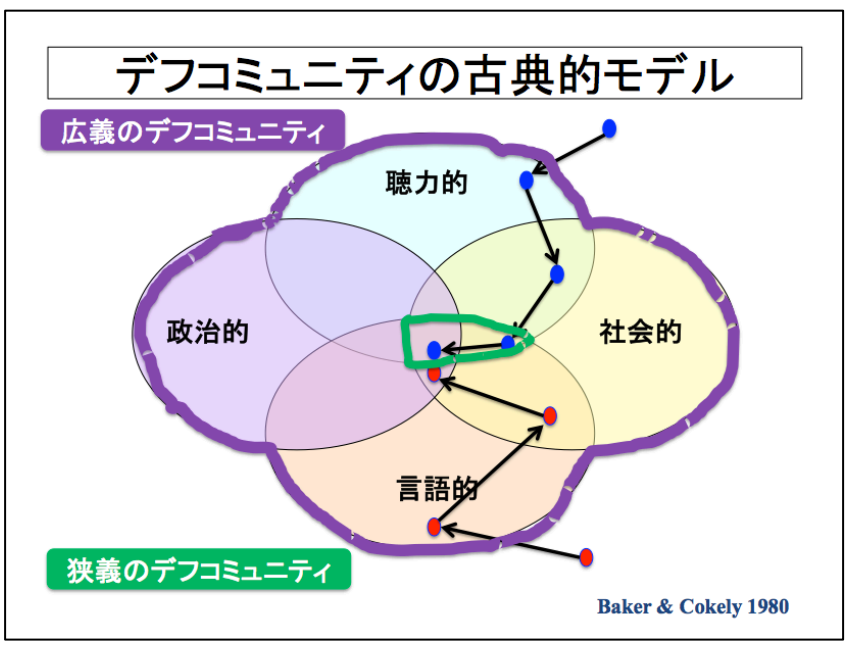
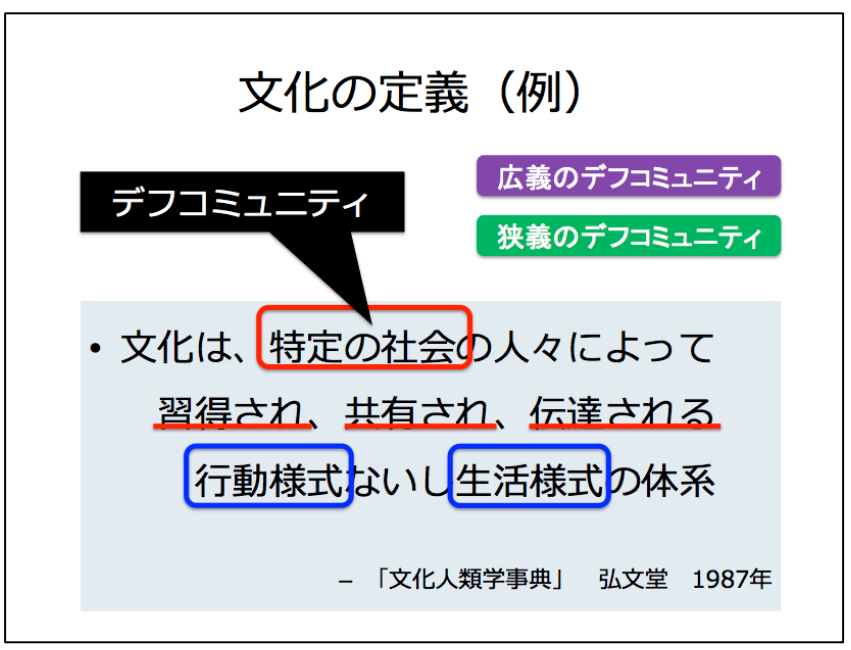
肥田氏の経験との違い、1960年代当時の世間の障害者観について考える。

✧ 1960年代に高校や大学への入学が断られたのはどうしてだろう。

✧ 1960年代の肥田さんとあなたの現在の経験で全く違う点はどういうものだろう。

✧ 逆に、時代が違っても共通している面は何だろう。

3．コミュニティの概念、文化との関係性について（まとめ）

Baker & Cokely 1980のモデルを説明、デフコミュニティへの参加ルートの確認をする。狭義的、広義的見方についても話し合う。

✧ 手話の出来ない聴覚障害者も聞こえる人もデフコミュニティの構成メンバーとなりうる。